

和歌山だよいい

平成24年 6月号



有田川の鶴飼 (有田市)

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P7
3. お知らせ…………… P8～P10
4. ふるさと歳時記…………… P11



国体マスコットきいちゃん

「道德教育」

『13才からの道德教科書』という本を読みました。内外古今の逸話を、13歳からと銘打ってあるように平易な文章で読者に紹介しています。

その逸話の中には、濱口梧陵さんの稲むらの火と串本・大島の町民のエルトゥールル号事件という本県に関連するお話が2つも載せられていて、和歌山県民として、まことに誇らしい思いがいたしました。

日本人は皆教育熱心ですが、どうやってよい学歴をつけるか、よい大学に行くかに少し片寄っている気がします。私は一番大事なことは「いい人間」を育てることだと思います。大学でも実社会でも家庭でも、人生は皆、人と人との関係です。「いい人間」なら、仲間にも上司にも部下にもお得意さんにも認められて、業績が違ってくるはずです。

それならば「いい人間」を作るにはどうしたらよいか。私は子どもの頃から人の道を説くしかないと感じます。すなわち道德を教えるということです。この点について、戦後教育は明らかに誤りをなしたと私は思います。戦争に負けたことは戦前のすべてが悪かったのだという考えで、人の道＝道德＝戦前は修身の教育を否定してしまいました。そして、修身教育が軍国主義につながったのだからという思い込みで、道德を教壇から説くことを教育者が躊躇してしまったのです。

その結果、日本人のすばらしさを特徴付けてきたものの考え方、すなわち正義、正直、誠実、約束は守る、思いやり、優しさ、自己献身、社会・国家への愛情、・・・という徳目が危機にひんしている気がします。

教育の現場で教員の一人ひとりが子ども達に人の道を説いてくれることを私は願ってやみません。人に道を説くことは、自らの人生を顧みることにもなります。子どもに言うておいて、それに反することはできない。社会の指導者も同じです。こうして教育を通じて、和歌山は世界に尊敬される地になるはず。そういう人材を輩出する地域だとの評価が固まれば、和歌山出身の人材はもっと世間で活躍できるでしょう。また、そういう人材が育まれる所だと皆が認識したら、人々は和歌山にこぞりて集うはず。これは企業誘致にも、観光にも、移住交流にも効果を及ぼすはず。稲むらの火もエルトゥールル号も生んだ和歌山です。できないはずがありません。



訪問先のシンガポールにて

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

● 香港・シンガポールを公式訪問

- ・ 5月14日から5月17日まで、仁坂知事は香港及びシンガポールを公式訪問しました。
- ・ 香港、シンガポールとも、発展するアジアを象徴する活気に溢れた地域であり、本県でも観光客誘致や県産品の輸出拡大に向け、力を入れてきました。
- ・ 和歌山県知事が香港を訪問するのは16年ぶり、シンガポールは今回が初の訪問となりました。

香 港

●和歌山県—香港企業商談会

- ・ 5月14日、県内企業と香港企業の商談会が、日本人倶楽部において開催されました。
- ・ 和歌山県からは13の企業、香港側からは37の企業が参加し、活発な商談が行われました。商談会には仁坂知事も出席し、出展したすべての企業ブースをまわり参加企業への激励を行うとともに、香港のバイヤーに対し、県内企業のPRを行いました。



●和歌山プロモーション

- ・ 商談会と同じ香港日本人倶楽部において、政府関係者、観光・食品関係業者、メディア関係者を招いて、和歌山プロモーションを開催しました。
- ・ 仁坂知事が、スライドを交えながら、和歌山が誇る豊かな観光資源や自然の恵みを受けた食材を紹介し、「魅力溢れる和歌山へ是非お越しくください」と話し、和歌山を大いに売り込みました。
- ・ さらに、和歌山県立医科大学の宇都宮准教授による「梅の機能性」についての講演も行われ、和歌山を代表する食材を健康面からも捉えることで、県産品の多様な魅力をPRしました。



●中華厨芸学院「マグロ」セミナー

- ・ 5月15日、公立の料理専門学校である中華厨芸学院で、「マグロ」セミナーを開催しました。
- ・ 将来の香港の食を担う訓練生に、和歌山県の特産品である「マグロ」の安心・安全・高品質をPRすることで、将来にわたって香港における県産品の消費拡大を目指すものです。
- ・ セミナーには(株)ヤマサ脇口水産の脇口光太郎社長と南紀勝浦鮪販売(株)の松本信彦取締役が出席し、高品質のマグロの見分け方、部位による味の違いから、日本食への利用、中華料理の応用レシピまでが紹介され、参加者は熱心に聞き入っていました。



●EGL社へのトップセールス

- ・ 5月15日、仁坂知事は、香港の大手旅行会社EGL社を訪問し、同社の袁社長と会談しました。EGL社は日本への団体旅行の取り扱い実績では香港トップを誇り、和歌山へも多くの観光客を送り込んでいます。

・仁坂知事が、和歌山の魅力を存分にPRすると、袁社長からは和歌山電鐵貴志駅などの新たな観光スポット等の開拓を含め、本県への送客を増やすことについて意欲的な回答を得ました。

シンガポール

●和歌山プロモーション

・5月16日、シンガポール日本人会において、和歌山プロモーションを開催しました。香港同様、政府関係者、観光・食品関係業者、メディア関係者を招いて、仁坂知事が和歌山の魅力をPRするとともに、宇都宮准教授による「梅の機能性」についての講演も行われました。



●高島屋シンガポール・伊勢丹シンガポールへのトップセールス

・仁坂知事は、シンガポールにおいて、5月16日に高島屋、5月17日に伊勢丹の現地法人を相次いで訪問し、トップセールスを行いました。

・高島屋では、安田社長を訪問し、県産品の果実や果実加工品の販売、及び和歌山フェア開催への支援に対してお礼を述べるとともに、今後の県産品の取り扱い拡大、フェア開催について意見を交換しました。また、食品売り場にも赴き、シンガポールにおける食の流行等について現地関係者から説明を受けました。



・伊勢丹では、リム社長を訪問しました。伊勢丹シンガポールは海外で初めて和歌山フェアを実施した記念すべき店舗で、仁坂知事はその後の継続したフェアの開催にお礼を述べるとともに、今後の県産品の取り扱い拡大、フェア開催について意見を交換しました。

・両社からは、県産品の取り扱い拡大、フェア開催について、ともに、前向きに協力するとの回答を得ました。

●現地有力旅行社へのトップセールス

・5月16日、仁坂知事は、現地の有力旅行社であるCTC社と康泰旅行社を訪問しました。

・CTC社は、和歌山への教育旅行の商品を作ることに関心を寄せており、仁坂知事は、豊かな体験型観光や歴史豊かな和歌山の魅力を大いにPRし、誘客を呼びかけました。

・また康泰旅行社は高野山向けの商品を既に持っており、仁坂知事は、和歌山県への新たな商品の造成とラインアップの充実を依頼しました。

・トップセールスの結果、CTC社からは、和歌山への教育旅行団の送客、康泰旅行社からは今夏向けの旅行商品の造成と送客を約束するとの回答を得ました。



・今回の訪問では、県産品の販路拡大や本県への誘客に結びつく具体的な成果も含め、各方面に幅広く和歌山の魅力をPRすることができ、大変有意義なものとなりました。

・香港、シンガポールはともに周辺諸国・地域の中で、トレンドの発信地的な役割を果たしており、和歌山県では今後も様々な取り組みを通して、和歌山ブランドを定着させ、さらに周辺地域へと拡大を図っていきます。

●「わかやま森林と樹木の日」記念行事を開催しました。

- ・5月20日、田辺市の新庄総合公園にて、「わかやま森林と樹木の日」記念行事を開催しました。
- ・和歌山県では、昨年開催した全国植樹祭の精神を後世に伝え、森林及び樹木を守り、育てるための施策を推進するために「和歌山の森林及び樹木を守り育てる条例」を制定し、この条例の中で、第62回全国植樹祭が開催された5月22日を「わかやま森林と樹木の日」と定めています。
- ・記念行事の冒頭、仁坂知事は「全国植樹祭の精神を引き継ぎ、わかやまの森と木々をいつまでも守って行って欲しい」と挨拶しました。
- ・式典では、昨年の全国植樹祭にご臨席された天皇陛下が詠まれた御製をお示しくくださった記念碑の除幕とともに、お手植えされた苗木に施肥を行いました。



御製
県木の
うばめがしの苗
植ゑにけり
田辺の会場
雨は上がりて

- ・また、「和歌山県緑化功労賞」の表彰も行われました。この顕彰も「和歌山の森林及び樹木を守り育てる条例」に基づいて創設されたもので、森林及び樹木を守り、育てる活動に功績のあった方々を表彰するものです。
- ・初の受賞者となったのは、花王株式会社和歌山工場と紀の川市立上名手小学校の皆さんで、仁坂知事から代表者に賞状が手渡され、功績を讃えました。

受賞者功績

＜花王株式会社 和歌山工場＞

長年にわたり工場環境緑化に取り組み、特に防風・防潮を目的に作られた松林は、地域と協力し市街地における良好な緑地景観を形成。また、昨年、和歌山工場内に設置した総合研究施設において、次世代の植物原料の研究を進めている。

＜紀の川市立上名手小学校＞

学校林を植栽して以来、下刈りや間伐など親子2代にわたり整備し、学校林をフィールドとした森林・林業体験を通じて児童の豊かな人格育成に尽力している。

●和歌山県知事表彰式を開催しました。

- ・5月28日、和歌山市のアバローム紀の国において、「平成24年和歌山県知事表彰式」を開催しました。
- ・和歌山県知事表彰は公共の福祉増進に功労のあった方、その他県民の模範となるべき方を表彰して、その功績を讃えるもので、昭和28年に始まり、これまでに、4737名と248団体の方々を表彰しています。
- ・60回目の節目となる今年は、53名と8団体の方々を表彰し、仁坂知事から表彰状と記念品が贈呈されました。
- ・仁坂知事は、60回という節目に際して、これまでのすべての受賞者に感謝の意を表すとともに、「様々な難題に直面しているが、和歌山が飛躍するように一層のお力添えを賜りたい」と式辞を述べました。
- ・受賞者を代表して、暮らしの安全及び向上の分野の龍田潤三さんが「この晴れの受賞を励みにして、心も新たに、より一層の努力をさせていただく」と挨拶しました。



知事表彰受賞者（順不同・敬称略）

（地方自治の振興）

町長及び市町村の議員や職員として地方自治の発展・育成に尽くされた方々

入江勉、今川年弘、岩本俊彦、菊屋和訓、岸本一彦、谷口昇男、寺井富士、平山光幸、鷲谷禎三

（保健福祉の増進）

民生児童委員や医師などとして地域の福祉や医療、保健衛生の向上に尽くされた方々

上野半兵衛、上山恵美子、学校法人近畿大学、木下真人、桑添育子、高橋志郎、中西克孝、板東源司、平林正樹、堀登世、和歌山市和歌浦赤十字奉仕団

（環境衛生の向上）

廃棄物処理や食品衛生向上に努め、環境衛生の発展に尽くされた方々

社団法人和歌山県産業廃棄物協会、松下政治

（暮らしの安全及び向上）

地域の交通安全や防犯活動、防災活動、運輸業などを通じ、県民生活の安全と向上に尽くされた方々

石井太郎、中村勝次、龍田潤三、雄湊地区自主防災会、八反田区自主防災組織、大濱多美代

（教育、文化等の振興）

海外との交流の発展や芸術等を通じた地域文化の振興、教育の充実に尽くされた方々

坂本順一、矢萩喜孝、小阪リカルド、土生川正道、松井珍男子、的場範夫、大西三郎、狭間歌子

（産業の振興）

商工業・農林水産業・建設業など各分野での活動を通じ、業界の振興及び育成発展に尽くされた方々

明山武夫、片山正則、川邑宗司、島和代、高岡伸夫、高田亮平、中村修史、長井保夫、堀畑光久、村上恒夫、山口春三、村上勝見、鳥居巖、原見健也、若勇光政、有田川漁業協同組合、西司夫、仲修美、丸山博之、谷口文英、富貴建男

（ボランティア）

精力的なボランティア活動により地域の活性化に尽くされた方々

梅木直幸、紀州梅の郷救助隊

（地域おこし）

様々な分野での新たな取り組みにより地域の活性化に尽くされた方々

浅井瑛介、熊野古道大辺路刈り開き隊

●株式会社玉林園が和歌山市に新工場を増設！

- ・この度、株式会社玉林園が和歌山市に新工場を建設することが決定しました。これにより、平成19年以来の企業立地件数は105件となります。
- ・株式会社玉林園は、安政元年（1854年）創業の老舗で、昭和33年に世界で初めて抹茶を使用した「グリーンソフト」を開発し、その原液及び「てんかけラーメン」等の麺類の製造も行っています。その他にも食品の卸売やグリーンコーナーの名称で親しまれている飲食店事業も展開しています。
- ・平成19年には和歌山県100年企業表彰を受賞し、グリーンソフトはプレミア和歌山にも認定されています。
- ・グリーンソフト、てんかけラーメンともに全国ネットのテレビ番組でも取り上げられて話題となり、広く認められたことを受け、製造体制を増強することになったものです。
- ・新工場は今年11月の操業開始を予定しています。



●和歌山県新メールマガジン「わかやま通信」配信中！

- ・和歌山県の主要施策や最新動向についてお知らせする、メールマガジンがリニューアルしました。
- ・新メールマガジンの名称は「わかやま通信」。従来のようにインターネットを通じて登録していただいた方に配信するだけでなく、県内外の様々な分野で活躍されている方々にも積極的に登録を呼びかけます。
- ・また、登録者が必要とする情報は様々であり、興味のない情報を配信することは迷惑メール化する恐れもあるため、カテゴリー登録制を導入し、それぞれのメルマガ登録者のニーズに応じた記事を配信します。
- ・カテゴリーは①防災・生活、②観光・自然、③県土・交通、④商工・労働、⑤農林水産・食品、⑥健康・福祉、⑦教育、文化、⑧国体、⑨地域情報、⑩県外向け情報となっており、これらのカテゴリー別に県政ニュースが随時配信されるほか、月1回、登録者全員に知事のメッセージなどが配信されます。
- ・配信は5月下旬から、開始されており、登録者も随時受付中です。
- ・登録を希望される方は、和歌山県のホームページ内の専用ページから申込みを行って下さい。トップページにあるメールマガジン登録バナーからもアクセス可能です。

和歌山県情報館のトップページにある登録バナーをクリックして下さい！



●「第11回わかやま環境大賞」決定

・「わかやま環境大賞」は、平成14年に創設された、環境保全に関する実践活動が他の模範となる団体又は個人を表彰する制度です。様々な活動事例を広く県民に紹介することにより、環境保全に関する自主的な取り組みを促進することを目的としています。

・11回目となる今回は『わかやま環境大賞（1団体）』、『わかやま環境賞（4団体）』『特別賞（3団体）』の表彰が決定しました。こうした団体の心温まる活動によって和歌山県が支えられています。

『わかやま環境大賞（1団体）』

○プロムナード国城（橋本市）

生ゴミ堆肥による畑ゴンボ栽培で耕作放棄地を復活させるなどの環境保全活動に取り組まれました。

『わかやま環境賞（4団体）』

○学校法人きのくに子どもの村学園 きのくに子どもの村中学校（橋本市）

学校でのビオトープ作りにより生態系を回復させるなどの環境保全活動に取り組まれました。

○田辺市立中辺路中学校（田辺市）

熊野地域の照葉樹林再生のためのボランティア活動に取り組まれました。

○デュプロ精工株式会社（紀の川市）

紙をリサイクルするトナー除去機能搭載の小型製紙装置を開発されました。

○トンガの鼻自然クラブ（和歌山市）

トンガの鼻とその周辺における美化活動や植樹、環境教育活動に取り組まれました

『特別賞（3団体）』

○有限会社ユタカサービス（紀の川市）

アイドリングストップ促進に寄与する車両用副空調システムを開発されました

○和歌山県立和歌山高等学校育友会（和歌山市）

土いじりの会活動を通じた学校やその周辺の美化・植栽活動に取り組まれました。

○和歌山市婦人団体連絡協議会（和歌山市）

明るく住みよい街づくりを目指した長年の美化や緑化活動に取り組まれました。

●ふたつのナビで わかやまの旅をスムーズに

・和歌山県では主要観光地までの公共交通機関を検索できる「わかやま交通ナビ」と熊野古道ウォーキングコースを検索できる「熊野古道ウォーキングナビ」をホームページ上に開設しました。

・ふたつのナビを活用すれば、効率的に観光地が回れ、わかやまへの旅の魅力も倍増します。

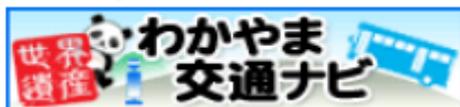
 わかやま交通ナビ

 鉄道・バスで巡る世界遺産「高野・熊野」 

和歌山県では、世界遺産「高野・熊野」エリアを中心に県内観光地までの空港・鉄道・バス乗継ぎルート検索サイトを開設しました。観光地の最寄りのバス停まで表示されますので、公共交通機関を使った観光プラン作成などのお役に立ちます。

◆観光地までのアクセス検索◆
徒歩も含めた公共交通機関の出発から到着までの所要時間と料金を表示

クリック!!



和歌山県ホームページ 和歌山情報館
(<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>) からご利用いただけます。



熊野古道ウォーキングナビ
(URL:<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/navi/walk/index.php>) と連携しています。

特長

- ☆空港からのルート検索
羽田空港から関西国際空港、南紀白浜空港を経由した乗継ぎ検索が可能
- ☆エリア内の駅、バス停、観光地間のルート検索
「熊野本宮大社」～「那智の滝」など、鉄道、バスの乗継ぎ検索が可能（地図からも検索可能）
- ☆県内の駅、バス停の時刻表検索
観光地の最寄りの駅やバス停の時刻表の検索が可能
- ☆英語でも検索可能

Smart phone



←持ち歩きナビ!!

パソコンだけでなくスマートフォン等にも対応!
※携帯電話の機種によっては、本サイトをご利用できない場合があります。

URL:http://wave.pref.wakayama.lg.jp/navi/traffic/index_jp.php

世界遺産 熊野古道ウォーキングナビ

ネット&スマホで、「熊野古道ウォーキング」をナビゲート！

和歌山県では、公共交通機関（鉄道、路線バス）を利用して、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」のウォーキングを楽しむための時刻、ルート等の検索システム『世界遺産 熊野古道ウォーキングナビ』の運用を開始しました。

■設定コース

「熊野古道中辺路」「熊野古道大辺路」「高野山町石道」から選抜した、難易度別（初級・中級・上級）の38コース



■手順

① 38コースの中から、お好みのウォーキングコースを選択

※見どころやマップもご覧いただけます。

② 出発日時を選択

③ 検索結果を表示

- ・最寄り駅からウォーク出発地点までの交通手段と時刻
- ・ウォーク区間中の立寄り地点までの距離と標準歩行時間
- ・ウォーク到着地点から最寄り駅までの交通手段と時刻



【備考】

利用者の安全を考慮し、次の場合には検索結果が表示されないよう、設定しています。

- 徒歩目的地に到着後、交通手段がない場合
- 徒歩目的地の到着時間が、次の設定時間を越える場合
(4/1~9/30...17:30、10/1~3/31...16:30)

Smart phone



←持ち歩きナビ!!

「パソコン」だけでなく「スマートフォン」等にも対応！

URL:<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/navi/walk/index.php>

※携帯電話の機種によっては、本サイトをご利用できない場合があります。



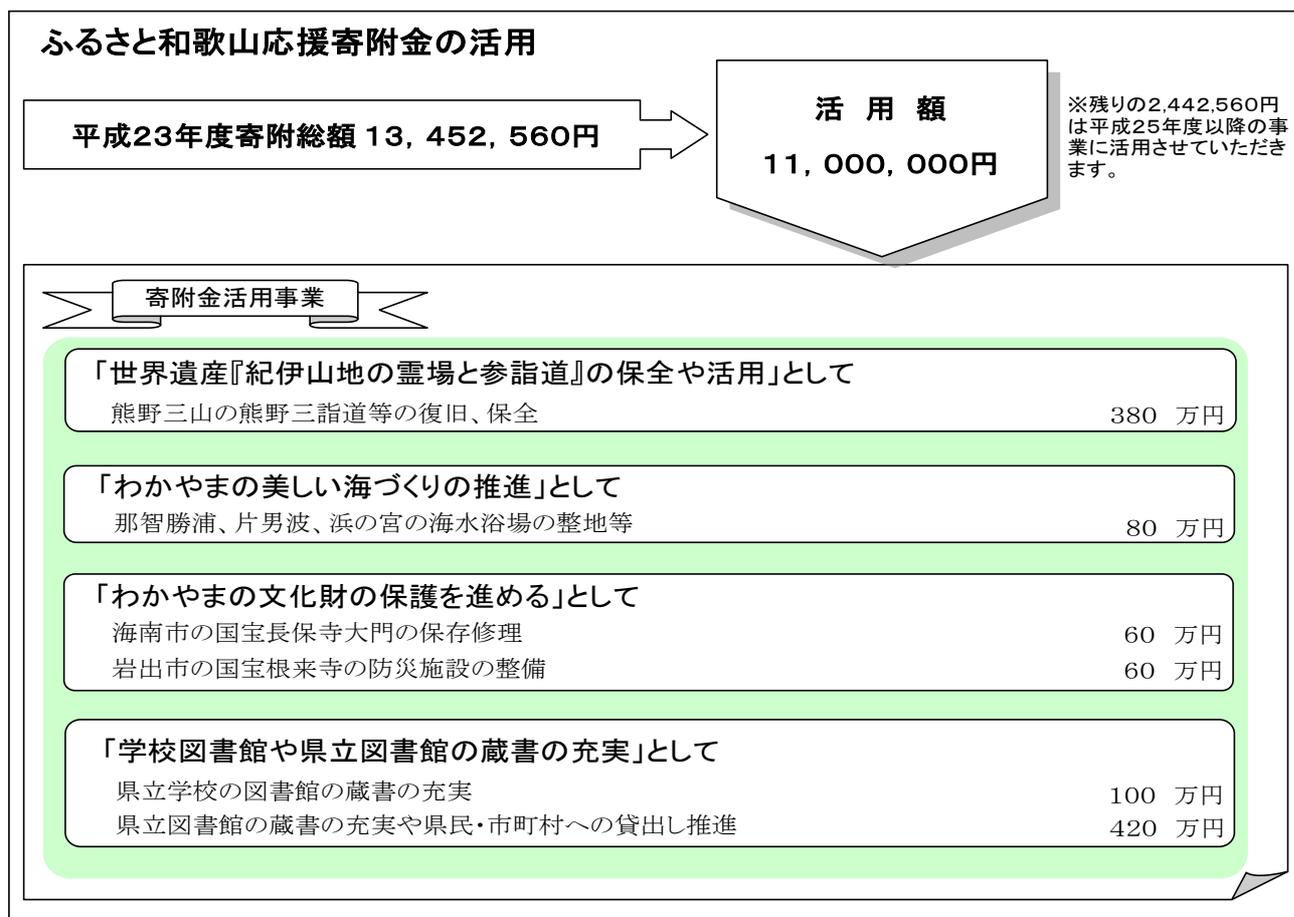
この2つのシステムにより、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を中心とした県内観光地の周遊をより一層、円滑にします

ふるさと和歌山応援寄附のお礼のご案内

ふるさと和歌山応援寄附の取組に多数の皆様のご理解とご賛同をいただき誠にありがとうございます。

お陰をもちまして、平成23年度は128人の方から1,345万2,560円の温かいご寄附をいただきました。また、心温まる力強い応援のメッセージも多数いただきました。紙面をもちまして厚く御礼申し上げます。

お寄せいただいた寄附金は、次のとおり活用させていただきましたのでご報告申し上げます。



この他の施策も強力で推進しますので、本年も引き続き、ふるさと和歌山応援寄附を通じて和歌山県を応援していただきますようお願い申し上げます。

また、平成24年4月から、全国の郵便局で寄附の払込が出来るようになりました。手軽に寄附をすることができるようになりましたので、ぜひご活用ください。詳しくは和歌山県ホームページの「ふるさと和歌山応援サイト」をご覧ください。

「ふるさと和歌山応援サイト」では、寄附申出時に公表に同意していただいた方のお名前や応援メッセージを掲載していますので、ぜひご覧ください。

○ふるさと和歌山応援サイト（URL <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>）

～有田市の話題いろいろ～

有田川の鶺鴒飼

・6月1日、有田川の鶺鴒飼が今年もオープンしました。

・伝統の鶺鴒飼は、一人の鶺鴒匠が一羽の鶺鴒を綱で操り、松明の灯りを照らして川の中を歩き、鮎を捕ります。これは「徒歩（かち）漁法」と呼ばれ、全国でも非常に珍しい漁法で、県の無形民俗文化財にも指定されています。

・その歴史は古く、室町時代に鳥屋城（現在の有田川町）の城主の石垣氏が木曾川から鶺鴒匠を呼んで地元の人に教えたのが始まりと言われています。

・見物客を乗せた屋形船と川面に揺れる松明の火は、有田川の夏の風物詩です

**太刀魚で地域おこし**

・有田市は太刀魚の漁獲量が日本一を誇っています。
・新鮮な太刀魚の頭と内臓を取り除き、骨ごと身を砕いて、すり身にしてあげたものは「ほねく」「ほね天」と呼ばれて親しまれています。

・このほねくを使って考案されたのが「たっちょほねく井」。地元の紀州有田商工会議所等が主催したB級グルメコンテストで2年連続で優勝したメニューです。

・刻んだほねくと玉ねぎのかき揚げをベースにした井で、これを地域おこしにも活かそうと、「有田たっちょほねく井を食べよら会」が結成され、有田市内の飲食店15店舗で提供されています。

**AR-ARIDA**

・「AR-ARIDA」は有田市の公式スマートフォン用アプリです。
・観光地情報や特産のミカンの情報を動画で紹介するコンテンツや観光スポット、宿泊スポットを知ることができるGPSマップ、さらには、有田みかんを育てるシミュレーションゲームも搭載されています。
・楽しみながら、有田の魅力を知ることができる地域情報アプリとなっています。



有田市ホームページ → <http://www.city.arida.lg.jp/index.html>

～編集後記～

5月21日の朝、皆様は日食グラスを手に空を見上げられたでしょうか？

この日、日本中が、「金環日食」一色に染まったと言っても過言ではないかも知れませんが、和歌山でも各地で観測会が開かれたのはもちろんのこと、様々な関連イベントも企画され、大いに盛り上がりました。

私も、出勤前に家族とともに日食グラスを取り合いしながら、盛り上がったひとりです。

紀南地方は、日食の中心線に近く、絶好の観測場所となり、県外からも多くの天文ファンが訪れ、世紀の天体ショーを堪能しました。当日はお天気も心配されましたが、雲の切れ間から見事な金のリングが現れたときは、歓声や拍手がわき起こりました。

この金環日食は「和歌山」をPRする絶好の機会にもなりました。

昨年の紀伊半島大水害により、観光業界は大きな打撃を受けましたが、様々な取り組みにより、復調著しいものがあります。今回も、地元の皆さんが趣向を凝らして訪れた方々をもてなし、これを機会にさらに弾みをつけて、夏の観光シーズンを迎えようと頑張っておられます。

季節は、梅雨入り間近ですが、今から、夏の計画を立てられる方も多いと思います。今年の夏は、ぜひ、大水害から復興したふるさと和歌山へお越しください。

さて、「和歌山だより」は今号で創刊50号となりました。

私が担当してからまだ2号ですが、これまでお読みいただき、励ましをいただきました皆様と前々・前任担当者に感謝しつつ、「継続は力なり」の言葉どおり、これからも頑張っていりますので、引き続きよろしくお願いたします。

知事室秘書課長 森田 康友

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧ください。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等をお願いします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2012年(平成24年)6月 NO.50

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022